

日本のサラリーマンが考えるべき将来の問題



Profile: 謙信アセットコンサルティング (香港)代表取締役。香港在住歴7年の資産運用コンサルタント。特に団塊ジュニア世代向け年金・保険対策プランニングを得意とする。

いつになる日本の将来?!

今回は団塊ジュニア世代を中心とする日本のサラリーマンが考えるべき将来の問題についてお話しいたします。前回の記事でお話ししたように、リストラ途上の日本航空がOBで3割、現役で5割の企業年金削減を決めた問題は日本の多くの大企業にとって氷山の一角に過ぎず、少子高齢化と産業の空洞化に伴って、将来支給される企業年金を減額せざるを得ない企業が今後続出してくるものと思われまます。また、企業健保の従業員負担保険料を値上げするとの報道も相次いでいます。

国民年金と国民健保についても、毎年、赤字国債を大量発行することで現状の社会保障制度を維持している状況で、赤字国債を発行しないで制度を維持するには、現時点で消費税を最低でも8〜9%も引き上げる必要があると指摘されています。

代が老後を迎えるころには、さらに大幅な増税をしない限り、現状の社会保障制度を維持することはできなくなっていることでしょう。

将来のリスクと対策は?

将来的に大幅な増税または社会保障制度の大幅な削減が避けられない状況であるなか、団塊ジュニア世代のサラリーマンが考えるべき将来の問題は主に3つあります。

- ① 日本円だけで資産を持つリスク
- ② 日本の金融機関だけに資産を預けるリスク
- ③ 日本で老後を暮らすリスク

が減少することが予想されます。

②については、日本の銀行や保険会社が赤字国債の最大の買い手となっているため、日本国の国際的信用力が低下した結果として起こる国債価格の暴落および格下げにより、1990年代後半に北海道拓殖銀行や日本長期信用銀行など絶対に潰れないと言われた日本の金融機関が倒産したのと同様のリスクが再発する恐れがあります。

③については、将来的な増税と社会保障の削減が予想されるなか、20〜30年後の日本は老人にとつて住みづらい国になっている可能性もあります。

こうしたリスクに備えて、私が団塊ジュニア世代の皆様提案したいことは3つあります。

- ① 外貨建て資産を持つこと
 - ② 海外の金融機関に一部資産を移動しておくこと
 - ③ 海外リタイアを視野に入れておくこと
- ①は、将来の円安リスクに備え、資産の一部をドルやユーロなど国際的に流動性の高い通貨で保有すること。加ドルや豪ドルなど将来的な価格上昇が見込まれる資源国通貨で保有するのもいいでしょう。
- ②は、日本の金融機関よりも格付の高い海外の金融機関に口座開設して、資産の一部を日本から海外に移動しておくこと。③は、日本よりも物価が安くて医療施設が充実している国でのリタイアを準備しておくこと。今ならタイかマレーシアあたりがおすすめです。

老後を豊かに過ごすには

将来的な節税対策を考えた場合、海外で殖やしたお金は海外で使ったほうが税金を安くすることが可能です。日本在住者が海外で殖やしたお金を日本に送金して戻す場合、一時所得扱いとなり、日本国内で課税対象となります。老後を海外で暮らすための資金として使うか、ご子息を海外の大学へ行かせるための資金として使う場合、実際に住む国での課税対象にはなりません。リタイアもしくは就学目的の場合は、ほとんどの国において日本よりも税率が低い、もしくは非課税のケースもあります。

老後を豊かに暮らすための目標資産額は、独身の方で5千万円、夫婦の場合で1億円の資産形成が目標となります。具体的な方法については、「海外で作る自分年金セミナー」でお話しさせていただきます。気軽にご来場ください。

今月のマナーの教訓

将来的な増税と社会保障削減リスクに備えて、資産の一部を海外に移動しておくとともに、海外リタイアを視野に入れて、今のうちから準備しておく。



将来の年金・保険対策はお済みですか?

「海外で作る自分年金セミナー」開催のお知らせ(参加費無料)

12月18日(土) 13:30~15:30 ▶ 広州景星酒店1F会議中心A庁

12月19日(日) 13:30~15:30 ▶ 深圳粵海酒店11F会議室

12月20日(月) 19:00~21:00 ▶ 香港日本人倶楽部18F菊の間

個別のご相談も随時受付中! /

お申込はメールもしくはお電話で木津まで

kitsu@kenshin.com.hk
TEL:+852-9062-0532

Kenshin Asset Consulting (Hong Kong) Co.,Ltd.
http://www.kenshin.com.hk/
社長ブログ: http://blog.explore.ne.jp/kitsu/